非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2016 年 8 月 20 日　月刊第 217 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　原水爆禁止世界大会 in 広島・参加報告　中村昭一
2 面　世界大会代表派遣募金のお礼と報告
3 面　世界大会・報告　長谷川夕希・藤本周一
「ヒバクシャ国際署名」運動をスタート
4 面　世界大会国際会議・参加報告　江守道子
5 面　立石雅昭氏の講演要旨　金田利里子
花鳥風月／関連写真
6 面　2016 ピースデー／反核・平和おりづる市民のつどい（写真特集）
7 面　エッセー：父親の戦死　内藤晴一郎
独標より：みずうみ　池田珠子
編集室より
8 面　被爆者が描いた体験画展　中田喜重
絵手紙コーナー　竹味恭子

原水爆禁止世界大会　参加報告
核兵器禁止条約の交渉開始は画期的

中村昭一

私は非核の会からの石川県代表団（四〇人）の一員として、四日から六日まで広島での〝原水爆禁止二〇一六年世界大会〟に初めて参加してきました。大会参加は私にとって長年の夢でしたが、実際に目のあたりにすると、その内容・規模ともに想像以上のものでした。核兵器廃絶という人類課題に真摯に取り組むこの運動を如何にして若い世代に継承していくのか、改めて考えさせられた三日間でした。

2016 年世界大会 in 広島のフィナーレ
（8 月 6 日、広島グリーンアリーナ）

大会期間中の五日、ジュネーブにおいて国連核軍縮作業部会は、参加する九〇ヶ国の過半数が〝核兵器禁止条約〟の早期交渉開始を支持したとする報告書案を発表しました。これは国連の場で核兵器廃絶への法的措置に向けた議論が本格的に開始されたことを意味し、大会参加者をはじめ世界の人々を励ますものとなりました。これは被爆者のたたかいと世界大会のつくりだしたものに他なりません。

大会ではまた、新たに始まった『ヒバクシャ国際署名』は、核兵器固執勢力を世論の力で追い詰める最重要の取り組みとして、繰り返し強く訴えられていました。以下、私の関わったものを中心に報告します。

八月四日　広島大会「開会総会」

（広島グリーンアリーナ　四五〇〇人）

開会宣言（小田川義和世界大会実行委員会議長）と主催者報告（富田宏治

花鳥風月

わが国は地震国である。今号五頁に紹介する二枚の写真は誰もが知る地震で、能登と東京に起きた現実だ。この写真と同じように、原子炉が持ち上がり、超高層住宅がねじ曲がっても、「想定外だった」と言って逃げることは出来ない▼特に注目すべきは、能登半島地震による揺れの加速度が最大で九四五ガル（防災科学技術研究所発表）だったことである。九五年一月の阪神大震災では八一八ガル（神戸海洋気象台観測）だった。因みに私たちが生活する地表における重力の加速度は九八〇ガルだ。わが輪島市門前町の象徴である曹洞宗総持寺祖院の総門は柱脚部が一〇㎝ほど持上って枘（ホゾ）が抜け、礎石に乗り上げていた。写真①にも見られるように突き上げるような力が加わったと思える▼もうひとつは写真②東京スカイツリーだ（ネットに投稿された写真）。二〇一五年五月三〇日二〇時二四分頃、小笠原諸島西方沖を震源とする巨大地震が発生した。東京都内の震度は小さかったが、長周期振動の揺れを伴ったのである。これらの事実はほんの一例に過ぎないが、いまこそ私たち個々人が、国と地域のあり方について問われているのだと思う。（こ）

国際会議宣言起草委員長）では、被爆者の訴えが世界の認識になりつつあり、この夏が国内外ともに激動の時代になることを予感させるとして、以下の三点が強調されました。

第一点は、国連の場で核兵器廃絶への法的措置に向けた議論が本格的に開始されたこと。それは核兵器の非人道性への認識が国際社会で共有され、法的枠組をつくることに多数の国が賛同する現状は、被爆者のたたかいと世界大会のつくりだした到達点であること。

第二点は、この五月のオバマ米大統領の広島訪問で「核なき世界を追求する」と述べたことの意義は決して小さくないこと。

第三点は、安倍政権が核兵器のない世界の道に背を向けていること。

来賓挨拶では、日本被団協代表委員の岩佐幹三さんが、一六歳で原爆孤児となり、原水爆禁止・核兵器廃絶を訴える平和運動に踏み出したきっかけを語りました。被爆被害を今後、決して誰にも負わせてはならず、「被爆者の魂は皆さんの運動を見守ってくれます」と参加者を強く激励しました。

その後、海外代表との交流が多数行われ、国際会議ならではの舞台となりましたが、特にセルジオ・ドゥアルテ元国連軍縮問題担当上級代表の「みなさんは素晴らしい仕事をしている。核廃絶への決意をもってぜひたたかい続けてほしい」との激励は強く印象に残りました。

採択された『原水爆禁止二〇一六年世界大会国際会議宣言』は、激動の時代を反映する内容で感動的でした。ぜひ原水爆禁止日本協議会ＨＰ等にある全文熟読を薦めたいです。

八月五日　分科会七「核兵器と原発」

（社会福祉センターホール　七〇〇人）

会場一杯の参加者が、原発や核兵器がもたらす核被害の実相、核兵器廃絶と原発ゼロの取り組みを交流しました。

四国電力伊方原発運転差し止め広島裁判の堀江荘原告団長は「原発をなくすことは、放射線の危険性を知るものとして、次世代への責任だ」と強調し、裁判をたたかいぬく決意を表明しました。

福島から二人の子どもと夫とともに東京に避難している女性が「子どもたちの未来を守るため、支援・賠償の打ち切り撤回などを求めてたたかいぬきます」と訴えると、参加者は大きな拍手で応えました。

夕刻は、二〇年ぶりに広島平和記念資料館を訪れましたが、特別の期間のためものすごく多数の人で、入館したものの展示に見入ることを断念し、人波をすり抜けて出口に向かうことにしました。展示をゆっくり見るのは次の機会にしました。

八月六日　平和式典と広島大会「閉会総会」

六日は、先ず広島市主催の平和記念式典に参加しようと早朝に会場入りしましたが、参加者が多すぎてテントに近づけませんでした。〝八時一五分〟を放送が聞こえる平和公園の元安橋の橋詰でむかえて黙祷し、引き続き世界大会・広島「閉会総会」（広島グリーンアリーナ　五五〇〇人）に参加しました。国連・政府代表の発言や特別企画「被爆七一年・被爆者の願い」も良かったけれども、文化企画「コラボコンサート」が胸を打ちました。最後の文書採択『広島からのよびかけ』も今日の情勢に照らして特別なものと感じました。

短期間でしたが、核廃絶へ向けての世界の動きを実感した三日間でした。

原水爆禁止世界大会代表派遣のお礼と報告を申し上げます

原水爆禁止二〇一六年世界大会in広島へ中村昭一さんを代表派遣いたしました。派遣にあたりまして一七人様から五一五〇〇円の募金をいただきありがとうございました。お礼を申し上げご報告をいたします。

世界は核兵器禁止条約の方向へ

核兵器禁止条約の交渉開始を国連加盟国一九三か国の七割を超える国が求めています。

しかし、核保有国が一番恐れているのは核兵器を「悪」と認めると、直ちに廃絶にすすまざるをえないことです。被爆国日本政府は「核兵器禁止条約は時期尚早」とのべ、自国の安全をアメリカの核戦略にゆだねています。

署名が世論をつくります

「ヒバクシャ国際署名」をすすめる石川の会の呼び掛けに応じて署名を推進していきましょう。

江守道子さん、中村昭一さんの大会報告と長谷川夕希さん、藤本周一さんの参加手記を併せてお読みくださるようお願いいたします。

非核の政府を求める石川の会
常任世話人会

原水爆禁止世界大会で感じたこと

長谷川夕希

私は子どものころから広島の原爆ドームには日本人として一度は訪れ、原爆のことや戦争について知りたいと思っていました。身近に戦争体験を話してくれる祖父母もおらず、戦争のことを知る機会が今までにあまりありませんでした。そんなことを考えていた時に、石川民医連の城北病院に入職し、原水禁世界大会に参加させてもらう機会をいただきました。広島も初めて訪れるので、とても楽しみにしていました。

原爆ドーム前（筆者右）

大会に参加し、被爆者の方や二世の方など全国、各国から平和を願う思いが一つになり、核兵器は二度と使用してはならない、核兵器のない平和な世界を返せ！という強い思いが伝わって来ました。

閉会総会には被爆者の代表の方から当時の体験談を聞き、七一年間苦しみ続けながら生活している人の声を初めて聞き、胸が苦しくなりました。

分科会では『映像のひろば』に参加し、平和行進の歴史について映像を通して被爆者援護と世界大会のための募金活動をしながら東京から広島まで七〇日間行進していることを知り、継続して平和を求めて行くために私たちは何をすべきか、考えていこうと感じました。

世界で唯一の被爆国である日本人として、また看護師の立場で戦争による犠牲者が一人でも減ることを願い、戦争のない世界になるように、広島で学んで感じたことを後世に伝えて行きたいと感じました。

（城北病院看護師）

平和な世界をつくるため 医療人の責務を再確認

藤本周一

今回は原水爆禁止二〇一六年世界大会へ参加させていただきありがとうございました。

私は一一年前の大会にも参加させていただきましたが、「九条を守れ」という当時の雰囲気とは打って変わり、「改憲勢力が三分の二を上回った今どうするべきか」という雰囲気の中、今大会は行われました。分科会では実際に被爆した電車に乗ったり、被爆者の方のお話を聞いたりしました。

被爆3日後に走り始めた路面電車

三日間を通じて広島に落とされた原爆がどのような被害をもたらしたのかだけでなく、世界各国からみた「戦争・核兵器」「平和」についても学ぶことができ、一医療人として、戦争のない平和な世界を作っていく大切さを再確認させられました。

（城北病院作業療法士）

「ヒバクシャ核廃絶国際署名」運動のスタート宣伝

七月一六日昼過ぎ、金沢市武蔵が辻に石川県原爆被災者友の会の三名も含めて支援者一五名が集まって標記の署名運動の石川県でのスタートを飾る宣伝行動をしました。今年四月から始まった全国キャンペーン、「ヒバクシャ国際署名」をすすめる石川の会が六月二七日に発足し、署名活動を開始したものです。

最初に被爆者で同会会長の西本多美子さんがマイクで「被爆者に残された時間は少ない。今度の署名は悲願である核廃絶を実現させるために、世界の被爆者自身が訴える内容になっている。署名へのご協力を」と訴えました。続いて医療者、青年、平和団体などの代表が次々とリレーで訴えました。

金沢市武蔵が辻で「ヒバクシャ国際署名」のスタート宣伝を行いました

原水爆禁止世界大会・国際会議

核のない世界実現に向けて 大きな期待と勇気をもらう

江守道子

毎年、広島で開催される原水爆禁止二〇一六世界大会・国際会議に『はだしのゲンをひろめる会』を代表し、八月二日、三日の二日間初めて参加しました。会議は、世界中の核兵器廃絶を求め、日ごろから活動している人たちが世界中から一堂に集まり協議するものです。

初日は午後二時から、ホテルセンチュリー21広島にて、大会テーマ「核兵器のない平和で公正な世界のために」と題し、被爆者、国連や政府代表、国内外の平和活動家が集った国際会議開会・総会が始まりました。昨年、白﨑良明先生が『はだしのゲン』の寄贈運動について発言し、海外に七セットを寄贈した実績から、今年も一〇セット寄贈を目指し、質疑応答時間での発言を申し込みました。

漫画『はだしのゲン』を通じ、平和の尊さをスピーチ

総会では、主催者で、世界大会実行委員会の野口邦和運営委員会代表が粘り強い運動の結果、国連でも「圧倒的多数の国が、核兵器を法的に禁止・廃絶する交渉を速やかに開始すべきだと主張している」と報告し、今後も「世界各国での世論と運動の継続が重要」と強調。被爆者あいさつでは、長崎で被爆した日本被団協事務局次長 木戸季市氏が自らの体験を語り、「核兵器の悲惨さ、すべての原爆被災者への国家補償の実現で、被爆者は初めて平和の礎として生きることができ、死者は安らかに眠ることができる」と述べました。そして、平均年齢八〇歳を超えた被爆者が今年提唱した「被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」（ヒバクシャ国際署名）を世界で数億集めよう、と呼びかけました。また、特別報告を行ったセルジオ・ドゥアルテ元国連軍縮問題担当上級代表は、「世界は核兵器をめぐる分岐点にあり、核兵器に依存して自国の安全保障を図ろうとする人々に立ち向かおう」と呼びかけていたのが印象的でした。

その後、質疑応答に入り、私はひろめる会を代表し、核兵器廃絶運動の基本である、核被害者の実相を理解すること、被害者の心情に共感すること、若い世代へ運動を引き継ぐことの重要性を英語で強調。そして、被爆者の証言活動も高齢化と共に今後は困難になると思われ、多くの人々に漫画『はだしのゲン』を通し、核戦争の悲惨さや、平和の尊さを学び続けてほしいと願っていることを訴えました。

フィリピン：平和を教え、平和運動をつくろう　ゲレーロ・M・サニョ氏（右から2人目）とともに

広島で被爆し、たくましく生きた故・中沢啓二氏の自伝『はだしのゲン』は、すでに英語、ロシア語、中国語、韓国語を始め世界二四か国語に翻訳され、少しずつではありますが、世界中を駆け巡っています。とりわけ若い人達に、ゲンの生きざまを通して核兵器の悲惨さ、戦争の愚かさ、平和の尊さを学んでもらいたいと訴えました。

午後に入り、第一セッションのテーマは「広島・長崎の原爆被害、核兵器の非人道性ヒバクシャのたたかい」。ここでは、国内を始め韓国、マーシャル諸島、ロシア、リトアニアなどからそれぞれの被爆の実態が語られ、その事実に大きな衝撃を受けました。続いて第二セッションのテーマは「核兵器禁止条約、核兵器のない世界、平和運動と市民社会の役割」。ここでも、アメリカ、イギリス、オランダから報告があり、とりわけ核軍縮キャンペーンを行ったイギリスのキャロル・ターナー氏の話の中で、お祭り、集会、有名人を巻き込んで行う活動方法やあくまでも人道的な活動であるという訴えの重要性が印象的でした。熱い質疑応答があり、終わったのは七時過ぎ、熱気に圧倒された半日でした。

翌日は、九時三〇分から第三セッションが始まり、テーマは「核兵器のない世界への共同：核抑止論の克服、戦争の平和的解決、脱原発、安全な暮らしと環境」。アメリカ、韓国、フィリピンの若い人たちから、平和活動への取り組みとその報告があり、改めて平和な世界実現への希望を見出すことができました。午後から参加した、第二分科会のテーマは「核兵器禁止条約、核兵器のない世界、平和運動と市民社会の役割」。ここでは、主に国内で行われている平和運動の報告があり、私も再度「はだしのゲン」寄贈運動の話をするため申し込みをしていました

が、時間がなく途中で退席したのがやや心残りでした。ただし、アメリカをはじめロシア、インド、フィリピン、オランダなどから早速申し込みがあり、今後早々に送る予定です。

私は世界に漫画『はだしのゲン』を通して、戦争の悲惨さや平和の大切さを知ってもらう目的で参加しましたが、久しぶりに若い人達と英語で話す機会にも恵まれ、核のない平和な世界実現に大きな期待と勇気をもらったエキサイティングなひとときでした。

（はだしのゲンをひろめる会副理事長）

原発を考える石川女性の会

第二九回総会・記念講演「活断層の上に・・・原発があるなんて」

立石雅昭（新潟大学名誉教授）

住民運動を大きく広げようと訴えられた立石先生

七月二三日、近江町交流プラザで、立石雅昭先生を講師に迎えて「総会・記念講演」を開きました。

原発を考える石川女性の会は一九八八年五月二八日に誕生しました。

一九八六年に起きたチェルノブイリ原発の事故後、多くの原発をもつ日本では、次に大事故が起きるのは日本だとささやかれ、四国の伊方原発では出力調整実験が計画され、心配する市民、とりわけ女性の間で反対運動が広がりました。

志賀町に原発建設計画のあった石川でも多くの女性が原発建設に不安を感じていました。当時三歳、六歳、八歳の子どもを育てていた私も原発建設を自分自身の問題だと感じ、「原発反対石川婦人の会」結成に参加しました。三年後に「原発反対」では地元の人たちと話し合えないという議論があり、「原発を考える石川女性の会」に改名しました。結成から二九回、毎年総会を開き、学習も重ねてきました。

今年の総会では立石雅昭先生に「活断層の上に・・・原発があるなんて」という演題で話していただきました。

立石先生にはずっと志賀原発周辺の断層について調査していただいています。志賀原発を考えた時、その敷地や周辺に活断層があるか否かが今問われています。それは再稼働か廃炉かの大きな岐路でもあります。

活断層とは何か？

では活断層とは何か？科学的には二五〇万年前から現在まで（第四期の地質年代）に生じたとみられる地質や地殻の変動は、将来活動するかもしれない地質であることを示唆する（米国標準審査指針）としていますが、日本では何ら科学的根拠もなく一二～一三万年以降に活動した断層のみを活断層とすると規制基準を過小評価しています。

地震が（テロを除いて）原子力発電所の安全を脅かす最大の脅威であることは、地震による被害のほとんどないアメリカ中東部でさえ確率論的リスク評価の結果、証明されています。

地震大国日本で、地震活動期に入ったといわれる今、次々と再稼働を許す原子力規制委員会はかつての安全神話を再び復活させようとしています。

福島原発事故から五年が過ぎても事故は収束どころか、大気と海洋を汚染し続けています。そして避難者は今なお九万二千人以上、避難指示が解除され帰還が進められるとともに、賠償・支援が打ち切られようとしています。新たな差別と分断も生じています。鹿児島川内原発は稼働し続け、伊方原発も再稼働を始めようとしています。

志賀原発の再稼働阻止はかってない住民運動で

これらの状況に私たちはどうしたらいいのか？住民・県民の安全を守るのは住民の運動です。志賀原発の再稼働を断念させるため、県内の住民諸団体が協力して、かってない住民運動を広げることが求められています。

（原発を考える石川女性の会事務局長　金田利里子）

【一面＝花鳥風月・関連写真】

写真①　突き上げる地震。ホゾのはずれた総持寺祖院・総門の柱脚

写真②　変形する東京スカイツリー。長周期振動の揺れを伴った。

アピール文を提案する石川県青年団協議会の役員さん

「平和の子ら」像の前で記念撮影する石川県原爆被災者友の会の皆さん

オープニングは親子太鼓

2016 ピースデー
反核・平和おりづる市民のつどい

金沢市の卯辰山玉兎ケ丘の原爆犠牲者追悼碑「平和の子ら」像前の広場で七月二四日、核兵器廃絶と平和を願う「２０１６ ピースデー」が開かれました。「平和の子ら」像は一九九八年八月、石川県原爆被災者友の会が中心になり建立されたもので、以後毎年、像の前広場で「ピースデー　反核・平和おりづる市民のつどい」が行われています。

沖縄戦跡・基地めぐりを報告する山本直君（小学 6 年）

「平和の子ら」像の制作者野畠耕之介さんが来賓挨拶

国連核兵器廃絶デーの活動紹介する江守道子さん

「青い空は青いままで子どもたちに伝えたい」と演奏する被爆二世の会の皆さん

中沢啓治氏が作詞した「広島愛の川」を独唱する幅田満里子さん

「はだしのゲン」翻訳者の集いを報告する浅妻南海江さん

被爆二世による人形語り「石川かたりつぎべ・平和のたね」

非核石川の会　リレーエッセー

父親の戦死

内藤　晴一郎

私の父は軍人ではありません。それなのに戦死しました。以下は母親から聞いた話をまとめたものです。

一九四二年秋、父は会社（山之内製薬、現アステラス製薬）の命を受け、単身フィリピンへ会社設立のため赴きました。私は二才、母の胎内には妹（野間比南子、フィリピンに関係する名前）が宿っていました。父はマニラボラトリィという会社を設立し、現地人を雇い、ミスター・ナイトーと慕われていました。六月に妹が生まれ、大変喜んでいたそうです。しかし妹は父に抱かれたことはないのです。残された写真には父と軍の将校と撮ったものがいくつかあるので、会社がうまくいっていたことがうかがわれます。

一九四四年一〇月フィリピン・レイテ島に米軍が侵攻。その頃、戦況が悪化したためフィリピンにいる日本人男性は全て現地応召という形で軍隊に入れられたのです。全てを売り払い、軍票に替え、リュックに詰め込んで持っていたそうです。

一九四五年八月、戦いがひどくなり、父の部隊が持久戦と称してルソン島ティノックの山中に潜んでいた折、マラリヤに罹りました。薬剤師だったので症状が分り、「金はあるから、キニーネが欲しい」と頼みましたが、「二等兵に回す薬はない」と断られ、山中で息を引き取ったのです。フィリピンでは民間人も兵にして、三〇～五〇万人もの人が戦死しました。大多数の人が餓死やマラリヤで死んだそうです。

もう少し早く戦争が終っていれば、生きて帰ってきたのにと思うと、とても残念です。

いま日本はアベが戦争できる国へと変えようとしています。憲法九条を変えようと企んでいます。戦争は絶対だめです。なんとしても平和憲法を守り、世界中に憲法九条を広めるのが私の願いです。

詩人会議かなざわ「独標」より

みずうみ

池田　珠子

このまま胸に閉じ込め
忘れてしまえると思ったけれど
事あるごとに　ざわざわと波立つ
この気持ちは何だろう

水面にさざ波がたち
空や森の姿が刻々と変化していく
自然はとても偉大で美しいけれど
時には
思いがけない災害に遭い
その被害の痛手が何度も蘇り
あの時のまま　ひりひりと痛みます
思い余って振り返りながら
捨てられなくて忘れる事さえも出来なくて
耐えてきた過去を吐き出すように
長々と日記に書き続けました

みずうみよ
私ばかりが繰り返し
痛手を受けてしまうのはどうしてでしょう
私は　いけないのでしょうか
私の何がいけないのでしょうか

崖を崩し木々をなぎ倒した嵐もあり
強嵐を受けるたび
散らせた木の葉や折れた枝の数々を
穏やかに湖底に沈められなくて
激しく　思いに任せ
ノートに書き綴ったことで
一時の気が済んでも
それは本当に
正しい事なのでしょうか

森は一層　輝きを増し
蒼く風が吹き渡り
湖面は鏡のように陽を照り返し
鳥や梢が騒めくばかり

《編集室より》

◎オバマ大統領が検討している『核兵器先制不使用宣言』を安倍首相は『抑止力を弱める』からと米国政府に反対の意思表示をしたという。六日安倍首相は広島の平和記念式典で「核兵器のない世界に向けて努力を重ねていく」と宣言されたが『虚言』だったのか。▼『ヒロシマ、ナガサキの被爆者が訴える国際署名』を読み返してみると、「人類は今、破滅への道か、いのち輝く青い地球を目指すのか岐路にある。二発の原子爆弾が一瞬のうちに町を壊滅させ、生き地獄の中で被爆者は生きてきた。二度とこの惨事が起きないことを。人類は生物兵器、化学兵器の開発、生産、保有、使用を条約や議定書などで禁じてきたが、核兵器はそれらを上回る破壊力を持つ悪魔の兵器だから、これを禁止し廃絶する条約を結ぶこと」を全ての国々に求めています。▼被爆者の皆さんの悲痛な叫びに応え核兵器廃絶署名を集め、『虚言』を包囲することは私たちの使命です。（平）

「被爆者が描いた体験画展」㉓

石川県原爆被災者友の会　中田喜重

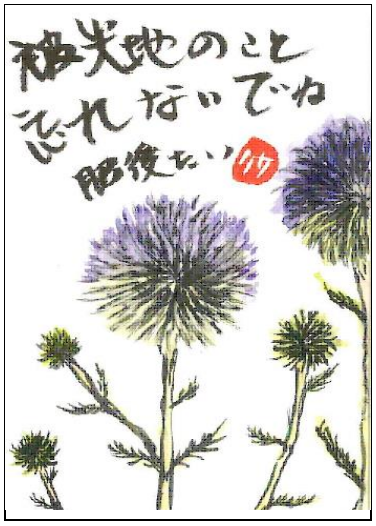
長崎市　被爆当日の状況

◎「被爆者が描いた体験画展」の作品は、一九七七年七月金沢市内で展示会が開かれた折りに中田喜重さんがカラースライドに撮影されたものです。本紙第一九五号から連載した「被爆体験画展」は今回で最終回になりました。

救護列車を待つ、線路わきの被爆者

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　竹味恭子



≪非核平和・行事予定≫

月	日	曜	時	内容	場所
8	25	木	11:00	九条の会全国討論集会	東京/明治大学駿河台校舎内
	27	土	11:00	第7回「九条の会」北陸ブロック交流会 講演 九条の会事務局員 高田健さん	金沢市西念金沢勤労者プラザ101研修室
	29	月	18:30	原水爆禁止2016年世界大会報告会	金沢市京町石川勤医協会館3階
9	5	月	14:00	石川県宗教者平和協議会・総会と講演　谷崎隆光さん	加賀市片山津温泉砂走　常願寺　→　ホテル
	6	火	8:30	同上講演 西山誠一さん　詳しくは 076－261－0939へ	ながやま・懇親会 泊　翌日午前講演
	6	火	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	7	水	19:00	いしかわ市民連合第2回意見交換会	ITプラザ武蔵5階研修室
	10	土	13:30	治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟石川県本部総会	金沢市北安江金沢勤労者プラザ
	14	水	14:00	鶴彬をたたえる集い 碑前祭	かほく市高松口銭場歴史公園
			15:00	映画会　南京事件兵士たちの証言	かほく市高松南町会館
	14	水	12:50	立憲主義と民主主義取り戻そう！ 昼デモ	金沢市いしかわ四高記念公園教育会館前口
	15	木	12:00	沖縄連帯宣伝行動	**金沢市武蔵**町Mza前
	19	日	14:00	戦争させないピースステント	金沢市いしかわ四高記念公園中央口
	22	木・休日	10:00	第26回石川県解放運動戦士合祀追悼集会	金沢市卯辰山合祀碑前
	22	水・休日	14:00	石川革新懇総会と講演　元狛江市長 矢野裕さん	金沢市北安江金沢勤労者プラザ
	24	土	13:30	日朝協会・日中友好協会　合同公開学習会 「最新の北東アジア情勢」 講師　秋元邦宏さん	金沢市昭和町平和と労働会館3階
	25	日	14:00	核戦争を防止する石川医師の会「核兵器廃絶国際行動デー／映画「ヒロシマ、そしてフクシマ」	石川県教育会館3階ホール
10	2	日	9:30	「はだしのゲン」中国語繁字版・出版記念講演会 中澤ミサヨさん・坂東弘美さん	金沢市近江町交流プラザ4階集会室
	6	木	12;30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	19	水	16:00	戦争させないピースステント	金沢市いしかわ四高記念公園中央口
	22(土)～23(日)			2016年日本平和大会in三沢	青森県三沢市

＊ 祝日は休日としています　＊毎週金曜日18：30　どいね原発アピール行動　金沢駅東口